

●こんな写真に戀をする



撮影データ
シャッター速度：10秒
絞り：f8
撮影感度：ISO LOW (64相当)
ライブND (ND32) 使用
アートフィルター：ドラマチックトーン

●ワイド側12mm
M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO / 価格13万625円
ワイド端24ミリ相当にて、シャッター速度にして5段分のND効果を持つND32にライブNDを設定し撮影。最低撮影感度のISO LOW (64相当)でも十分にシャッター速度が落とせず、かといって絞りを不必要に絞ると回折現象でピントが甘くなるデジタルカメラのジレンマ。そこでこのライブNDによる複数の画像を合成し露光時間を延ばすと同じ効果を得られる機能がスローシャッターの表現を得るには最適。アートフィルターによる効果も印象的です。

撮影データ
シャッター速度：1/80秒
絞り：f2.8
撮影感度：ISO1250
ピクチャーモード：ポートレート

●テレ側40mm マクロ撮影
M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO / 価格13万625円
マクロレンズといえども最短撮影距離ギリギリの接写にチャレンジすることって昆虫写真家以外あんまり無いと思うんです。たとえばそう、お雛様人形の細部を見せたくてこれくらいまで寄れば充分ぐらいかと。それでもこんなに寄れる標準ズームで案外少ないのであります。これでもまだ最短撮影までは十数センチの余力を残しつつシャープな解像に作品撮影に良し、業務撮影なおもしろの万能ズーム。ほんとこの一本に頼ってますあたし。



電子写真機戀愛

デンシシヤ シンキレンアイ

第五十四夜

耐久性向上、全速前進。

長くカメラマンをしておりますと、お気に入りのレンズというか勝負レンズみたいなモノが出てきます。もちろん撮影するモチーフによってレンズを替えるのが写真家のテクニックですし、得意の被写体に応じて勝負レンズも変わってくるのであります。

そのへんを踏まえてもあたくしのここ一番の勝負レンズはこのオリンパスM.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO。

35mm判換算でいう24ミリから80ミリ、開放F値全域f2.8というカメラマンが使うレンズとしては実に普通スペックの交換ズームレンズ。でも、取材や撮影だとまずはこの1本がないと始まらない。とりあえずボディにはこのレンズ付けてスタンバイしておけば安心するという信頼感。描写力、重さ、サイズ、価格に耐久性のバランスが自分的に心地良く、まずはこのズームレンズを根幹に撮影システムというのを考えている次第でございます。

するってえとこのレンズに合うボディはナニを選ぶべきかという問題が出てきますが、ここはオリンパス最新最良自信作のOM-D E-M1 Mark IIIで間違いありません！

もちろん最強機種はE-M1Xでありましたが、M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PROとのバランスはこの副将OM-D E-M1 Mark IIIのほうが優れているのではないかと、軽快感はこちらが上ではないかと、そう考えているワケでございます。さかのぼること2016年の年末に発売されたOM-D E-M1 Mark IIの後継機でありますこのOM-D E-M1 Mark III。いったいどのへんが進化したかというわたくし個人的な感想で1番のステキポイントが「USB Type-C端子からモバイルバッテリーを使用して撮影したりUSB給電でバッテリーを充電できる」ようになった点。これはお出かけ、旅行、出張など荷物を軽くコンパクトにしたい時にスマホやPCとACアダプターが共用でき充電器を持っていかずに済むというのは嬉しいものです。ほかにもテクノロジー的に他社を大きく引き離れたポイントは驚異のシャッター速度7段分もの手ぶれ補正。先代E-M1 Mark IIは5.5段で充分スゲー！だったんですが今回はさらにスゲー7段！ そのうえで「M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO」を装着した「5軸シンクロ手ぶれ補正」使用時にはなんと最大7.5段分の補正力！ これは50ミリ程度の焦点距離での撮影時には体調次第で1秒ちょっとから2秒、場合によっては3秒近くシャッターを開けていてもブレが止まって写るといってでございます。

そしてE-M1Xに搭載されていたNDフィルター無しでのスローシャッター機能「ライブND」も搭載。先の超強力な手ぶれ補正力によりライブND時のスローシャッターと合わせ、滝や流れる水の表現など幅広い撮

オリンパス OM-D E-M1 Mark III

影に対応できるようになりました。また通常であれば2000万画素の画像を連続撮影、これを合成することで高解像度画像に生成するハイレゾショット機能も手持ち撮影が可能になりました。手持ちモードと三脚モードが選べ、これまで三脚が必須だったハイレゾショットに手持ち撮影が可能になったことでますます活用の幅が広がったのであります！ あと、申し遅れましたが手持ちハイレゾ時の画素数はじつに約5000万画素。小声ですが、フルサイズセンサーの機種でも5000万画素越えのモデルってそうそう無いですよ皆さん……なお、従来の三脚モードのハイレゾでは約8000万画素の画像が撮影できるようになりました!! (ここは大声)

ほかにも直感的にAFポイントを設定できるマルチセクターの採用。シャッターの耐久性性能を従来の20万ショットから倍の40万ショットの作動試験をクリアする高耐久シャッターの搭載。AF性能も星空へのフォーカスに特化した「星空AF」モードや「顔優先/瞳優先AF」の検出精度を大幅に進化させていたり、撮影性能の基礎部分で実にしっかりと造りこんでいるのであります。がらりとカメラの印象が変わるモデルチェンジのような派手さはないものの、旧来機種のような部分の解消されているOM-D E-M1 Mark III。より安心感の増したプロ機材として完成しておりますゆえ向かい風のアウトドア、降水予想のロケ取材、そのほか荒れそうな撮影を控えている方にこそぜひ！

●こんなレンズに頼っちゃう

オリンパスカメラを愛用するプロが絶賛するM.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PROがコチラです。防塵防滴構造、ズーム全域で撮像面から



20cmまで寄れるマクロ性能と35mm換算24ミリから80ミリ域の全域で絞り開放F値2.8の明るさを備えつつ質量382gに抑えたコンパクトな頼りになる1本です。

●ここがスゴイよ手持ちハイレゾ

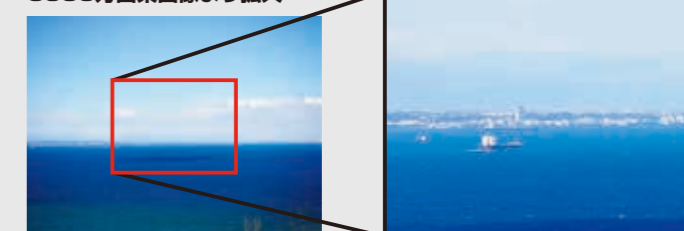
こちらが5000万画素の手持ちハイレゾショット。16ショット合計3億2000万の画素情報から約5000万画素画像を生成。三脚を持ってなくても手持ちで超高解像写真を撮影できます。多数枚合成によるISO感度にして約2段分のノイズ軽減効果も嬉しい、細部の描写が欲しい風景写真や、夜景においてもその効果が期待できるのです。

2000万画素画像より中央部拡大



ふつうはコレでも充分シャープなのですが…

5000万画素画像より拡大



単に画素数増しではなく階調もより豊かに、ノイズも明らかに滑らかかつシャープになっている。

写真と文
織本知之

コロナウイルス問題でどこいっても空いてるという2月、3月でした。さて、国内最大のカメラ展示会であるCP+も開催中止になってしまったんですが、中止の憂さを晴らすように来年は弾けて大盛會になることを写真業界の末席から期待して止みません。



オリンパスOM-D E-M1 Mark III



ボディ価格オープン(実勢22万円前後)、12-40mm PRO レンズキット(実勢28万5000円前後)。
©オリンパス カスタマーサポートセンター ☎0570-073-000

●地味だけど効果絶大

新しく搭載されたマルチセクターは、素早く直感的にAFエリアを移動できる快適装備です。ほかにもUSB充電が可能になった点や40万回のレリーズをクリアした耐久シャッター、微小な星にも確実にピントを合わせられるアルゴリズムで星へのフォーカスに特化した星空AFなど地味だけど効果の高い改良で進化しました。

